

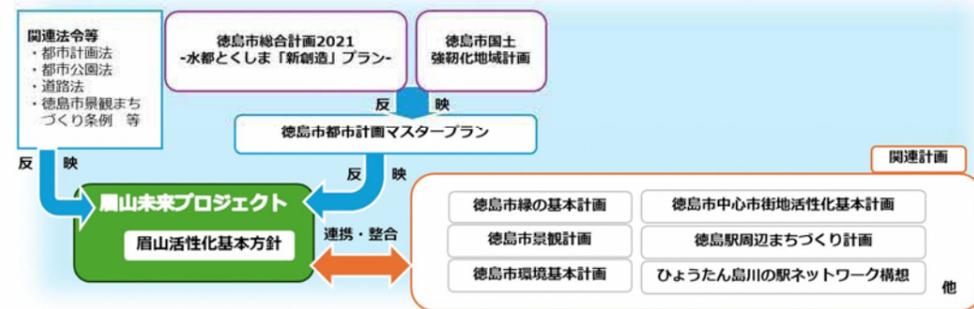
1. 眉山未来プロジェクト

眉山未来プロジェクトとは

「眉山未来プロジェクト」は、徳島市緑の基本計画において眉山山頂周辺を緑化重点地区として都市緑化を積極的かつ重点的に推進し、併せて景色を活かした企画、施設の充実を図る地区に指定したことから、具体的な取り組み方針を定め、実施を図っていくことを目的としたプロジェクトです。



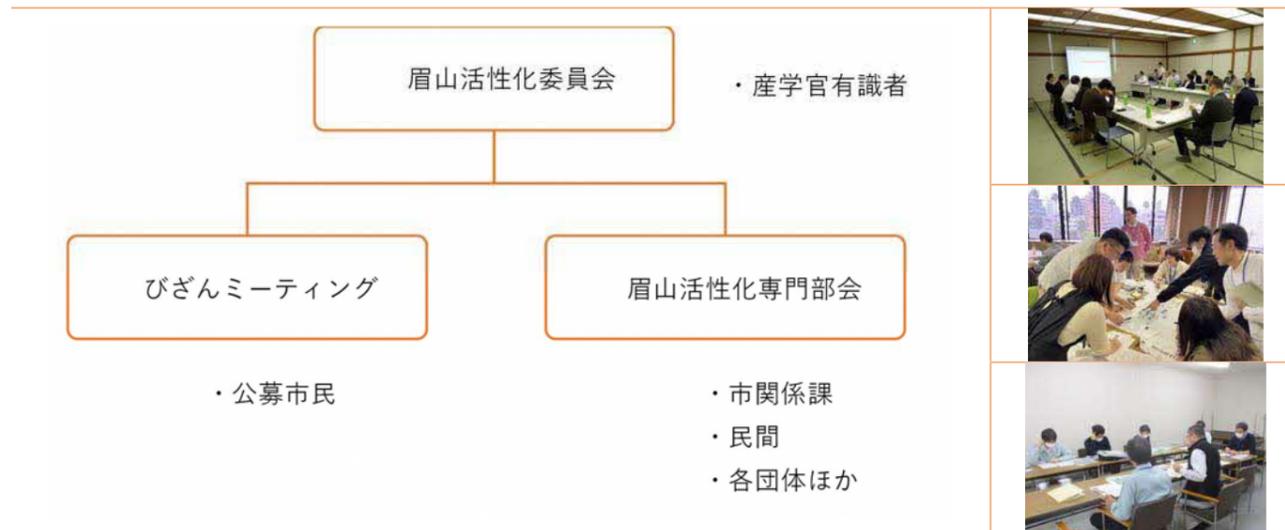
▶位置づけ



眉山活性化基本方針の策定

徳島市緑の基本計画では、眉山山頂周辺について「見るだけでなく、楽しみながら滞在できる緑と景観のシンボル」との目標像を掲げています。

その実現に向け、産学官の有識者で構成する眉山活性化委員会、公募市民からなるびざんミーティング、専門的な課題への対応を検討する眉山活性化専門部会を設置しました。



2. 眉山の現状と課題

眉山の現状

徳島市の人口は、平成12年から令和2年で約1.6万人減少し、今後も人口減少が継続することが見込まれる中、65歳以上の人口は増加する傾向で推移しています。

人口減少や高齢化が進行する中でも依然として、幼児から年配の方まで幅広い世代が集える公園の整備は市民ニーズとして高い状況となっています。



眉山は標高290mの山で、中心市街地側から眉山ロープウェイの発着場、展望台、展望広場、花のカスケードを通り西に進むと駐車場、更に西に進むと休憩施設、ガゼボ、モラエス像、眉山海月があります。

徳島市の中心市街地に近接し、古くから多くの市民に親しまれてきた徳島市の象徴的な山であり、貴重な観光資源であることは誰もが認めるところです。

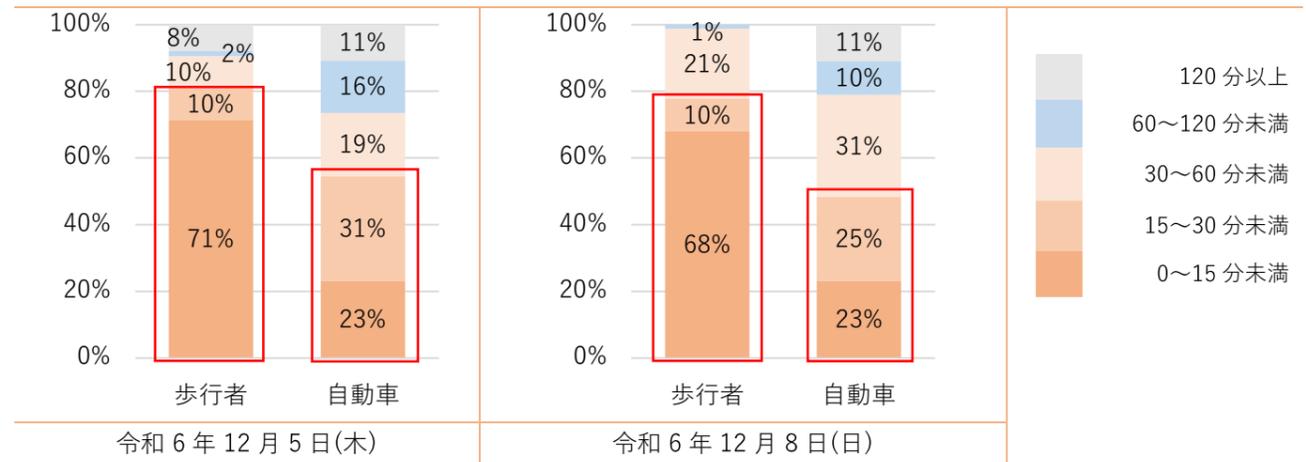
眉山公園（山頂部）の来園者数推定

利用者数調査は、眉山公園（山頂部）に定点カメラを設置し、2日間の利用者数を把握するとともに、阿波おどり会館、眉山ロープウェイ、眉山海月に利用者数の聞き取り調査を行いました。また、ドコモGPSのデータを活用した人流分析ツール Datawise Area Marketer を活用し、季節、天候の違いを加味した眉山公園の来園者数を推定しました。

登山	9.7 万人
車・バイク・自転車	17.6 万人
眉山ロープウェイ	11.1 万人
眉山海月	2.4 万人
令和6年度総来園者数推定	40.8 万人

眉山公園（山頂部）の滞在時間

眉山公園利用者の滞在時間を調査した結果、大半が30分未満の滞在であることが分かりました。



課題抽出

眉山公園及びその周辺における課題や提案に関する内容について、4つの手法を用いて意向調査を実施しました。

サウンディング型市場調査	眉山の魅力向上に向けた効果的な整備事業や課題、提案などについて調査
口コミ調査	インターネットに掲載されている眉山公園に関する口コミ調査
ヒアリング調査	様々な団体の立場から魅力や課題、イベント等に関する要望調査
アンケート調査	<p>【利用者向けアンケート調査】</p> <p>満足度、魅力、改善点、希望する施設や参加したいイベント等について調査</p> <p>【高校生向けアンケート調査】</p> <p>市内高校生を対象に魅力、改善点、希望する施設やイベント等について調査</p>

課題と提案の整理

意向調査を踏まえ、眉山の主な課題と提案を以下のように整理します。

- ◆景色以外に楽しめる工夫や施設の整備が必要
 - ・滞在中に楽しめる施設がないことが課題
- ◆公園内の高低差への対応が必要
 - ・眉山公園の周遊性や滞在時間に影響していることが課題
- ◆鬱蒼とした木々の伐採、適切な植栽が必要
 - ・伐採などの管理が不十分であり、眺望が望めないエリアも多いことが課題
- ◆眉山の魅力発信が必要
 - ・眉山からの眺望の魅力を含め、眉山公園の魅力発信が十分できていないことが課題
- ◆案内看板の設置・更新が必要
 - ・公園内の案内看板の老朽化や眉山公園までの経路が分かりにくいことが課題
- ◆イベントでの活用の促進が必要
 - ・イベント活動が不十分
- ◆夜間照明の見直し、トイレ等公園施設の改修、強い日差しや風雨をしのげる場所の創出が必要
 - ・夜間でも安心して利用できる整備、利用者が快適かつ安全に利用できる整備、木陰や屋内施設の整備

SWOT分析

眉山の現状や各種意向調査をまとめて、SWOT分析を用い、強みと弱みを整理します。

	強み Strength	弱み Weakness
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 景色 / 夜景 ✓ 自然(草木花 / 野鳥 / 動物) ✓ 立地(市街地中心部) ✓ 複数のアクセス方法 ✓ 歴史 / 由来 ✓ 登山道 ✓ 観光地としての知名度 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 景色以外楽しむ要素がない ✓ 飲食店などがほぼない ✓ 景色を阻害するほど成長した木 ✓ 雨天時の楽しみ方がない ✓ 子どもが楽しめる遊具やエリアがない ✓ 高低差が激しく、移動が不便 ✓ 大型車両が通れない
	機会 Opportunity	脅威 Threat
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新町西地区の開発(中心市街地の活性化) ✓ インバウンド需要の拡大 ✓ 市街地のイベントとの親和性 ✓ 大阪・関西万博の開催 ✓ 宿泊施設の開業 ✓ 関西圏とのアクセス ✓ 低山登山ブーム 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 郊外への商圏の変化 ✓ 市街地中心部の魅力低下 ✓ 市バスが通らない ✓ 活発な市街地中心部でのイベント(眉山公園との連携ができていない) ✓ 風致地区としての規制

眉山の魅力を十分に活かしきれていない
眉山公園とその周辺地域の活性化は徳島市の重要なテーマ

3. 目指すべき眉山の未来と目標設定

見るだけでなく、楽しみながら滞在できる 緑と景観のシンボル

眉山の現状分析結果を踏まえ、徳島市緑の基本計画において緑化重点地区である眉山の目標を本方針における目指すべき眉山の未来像とします。

また眉山の未来像を実現させるため、本方針策定において

**みんなが
楽しむ**

多様な人々世代を超えて、憩い楽しむ眉山

**みんな
でつくる**

産・学・官・民連携で、活気あふれる眉山

**みんなを
つなぐ**

歴史・文化を継承し、にぎわいつづける眉山

の3つを柱に策定作業を進めました。

本市が眉山の未来像の実現に向けた代表的な指標として以下の2つを位置づけ、後に示す眉山未来プラン実現後の長期的な視点で、令和17年度に達成すべき目標値を設定します。

代表的な指標		現状値	目標値	備考
眉山公園 (山頂部)	来園者数	40.8 万人	60.0 万人	令和6年度推定値
	滞在時間	0.5 時間	2.0 時間	令和6年度推定値

また、来園者の満足度を確認することなどにより経過観測を行い必要に応じて時点修正を図りながら目標の達成を目指します。

4. 眉山未来プラン

令和5年度に実施したサウンディング型市場調査で出された提案をたたき台とし、本方針策定の中で実施した人流調査、各意向調査、他都市事例調査、現状分析等を総合的に考慮し、公募市民によるびざんミーティングの「びざんミーティング眉山未来プラン」を基に眉山未来プランを作成しました。

眉山公園（山頂部）

眉山未来プランでは、眉山公園（山頂部）を以下に示す3つのゾーンに分けています。

エントランス・広場ゾーン

—やまとまちを感じるくつろぎの空間—

(1) エントランス整備・キャンプ場・星空展望台

眉山の麓から山頂へ向かう2本の道路がつながる交差点付近は、植栽やモニュメントを配置し、エントランスとして整備します。

眉山海月東側の小高い丘には、民間活力によるグランピング等をイメージしたキャンプ場の整備を検討します。また、地の利を活かしてやぐら形式の展望台を整備します。



星空展望台のイメージ

(2) 芝生広場・展望プロムナード・フォトスポット

現在のお花見広場は、山頂に吹く風を全身で感じる事ができる広々とした芝生広場としてリニューアルします。

芝生広場の北側は、ピクニックやイベントなど多目的広場として、南側は、眉山の自然を満喫できるキャンプサイトとして整備します。

芝生広場の北側斜面から現状のガゼボまでを取り巻く区間には、栈道形式のデッキによる展望プロムナードを整備します。

広場を取り巻く視界をさえぎる樹木を伐採し、市街地を見下ろす眺望を確保します。更に、ソファベンチやカウンターベンチ等を要所に設置して、ゆっくりとくつろぎながら四季を感じられる空間を演出します。また、フォトスポットも盛り込んで計画します。



芝生広場北側のイメージ

(3) 野鳥観測・自然体験

広場の南側斜面の森、現状の野鳥観察広場周辺は、野鳥観察に加えて自然体験もできるエリアとして整備します。自然環境の保全を第一に既存の遊歩道の再整備、バードパスや小規模な休憩施設の設置を検討します。

パークセンターゾーン

— 一年中楽しめる交流・遊びの空間 —

(1) パークセンター・スロープ・山頂ステージ

現在、公園を東西に分断し利便性の低下を招いている駐車場の南側に、階段状2階建構造のパークセンターを整備します。

1階駐車場は、大型車両・バス用の駐車スペースを確保し、現状を上回る小型車用の駐車スペースも確保します。

2階は、北側前面に広めのデッキスペースを確保し、ベンチ・テーブル等を設置するとともに、様々なサービス施設を民間活力の導入も視野に入れて整備します。

屋上は、公園を移動する通路としての機能を兼ねた多目的の広場となり、イベント等の開催による賑わい創出の拠点として利用できるよう整備します。

また、駐車場北側に屋外ステージを整備することで、ステージを囲む地形と施設を活かした観客スペースが確保され、大規模なイベントにも対応できる山頂ステージ空間となります。



パークセンターのイメージ

(2) シンボル広場・こども広場

パークセンター西側は、シンボル広場として整備します。

シンボルツリーとなる高木を植樹、その周りには文字モニュメント等を配置し、公園を訪れた人の記憶に残る景観を演出します。

シンボル広場より北側の丘は、こども広場として整備します。周辺部は既存樹木やドングリのなる木を植樹、中央の広場部分にはインクルーシブ遊具や複合遊具を設置して、年齢や体力の違いに関係なく、全ての子どもが楽しい時間を共有できる場とします。

メインアトラクションとして斜面の高低差を利用したロングスライダーを設置します。



シンボルツリーのイメージ

展望広場ゾーン

— 眺望を活かした花と緑の空間 —

(1) 花のカスケード・花の丘通路・エレベーター塔・空中通路

花のカスケードは、南側の緩やかな斜面に盛土を行い、花のカスケードを拡張することで、色とりどりの花と緑が、来園者を出迎えることになります。

パークセンター屋上から展望広場まで、車いすで利用できるルートとして、花の丘通路、エレベーター塔、空中通路を整備します。



エレベーター塔・空中通路のイメージ

エレベーター塔は花と緑の森の中に立つランドマーク的な存在となるよう景観に配慮したデザイン性の高いものとします。

空中通路は、エレベーター塔から曲線を描きながら展望広場と結び、まるで空中に浮かんだ通路・階段を歩いているかのような感覚を味わえるものとします。

(2) ケヤキ広場・彩園路整備・参道整備

展望広場には、ケヤキ等の高木で木陰をつくり、これを取り囲むベンチを設置して、くつろぎの空間を整備します。

展望デッキにはカウンターベンチを設置して、市街地を見下ろす素晴らしい眺望を楽しめるようにします。

展望広場から東側エリアは、園路整備や桜・紅葉樹・アジサイ等の植栽を行い、展望広場から剣山神社に向けた通路は、和の空間をイメージした参道として整備を検討します。



ケヤキ広場のイメージ

ゾーン共通

エントランスロード（延長約 500m）は、イロハモミジを主とする紅葉樹を植樹することで、まず眉山の自然の素晴らしさを感じてもらえる空間として整備します。

その他、景観や安全面に配慮した園路整備、景観や環境に配慮し LED を用いた照明設備、誰もが快適に利用できるトイレ整備、QR コード・AR を用いた園内誘導や施設説明、AR を用いた賑わい創出のコンテンツ展開、園内を快適に滞在できるよう Wi-Fi 等の環境整備、自動運転の電動カートによる移動モビリティ、植栽等を行います。



モミジロードのイメージ

眉山公園（大滝山部）

(1) 園路整備、標識・案内看板の設置

大滝山は、利用者の動線や景観に配慮した園路整備、大滝山周辺の道路や登山道を分かりやすく案内するため、外国語表記や QR コード等を活用した標識・案内看板の設置を検討します。

(2) 休憩施設・飲食施設の整備

大滝山の景観にマッチする和風なイメージの休憩施設、飲食施設（茶店等）の誘致を検討します。

(3) その他

大滝山の景観や環境に配慮し、桜・モミジの植樹や PR、大滝山周辺のマップ作製（神社やほこら等を含めた位置関係が分かる）、観光ルートの整備を検討します。



出典：滝のやき餅 和田乃屋

西部公園

(1) 駐車場の増設

現在の駐車場台数は19台で、今後の利便性向上のため駐車場の増設を検討します。

(2) 園路整備、標識・案内看板の設置

西部公園周辺の道路や登山道を分かりやすく案内する標識・案内看板の整備を検討します。また、外国語表記やQRコード等を活用し、景観や環境に配慮しつつ、分かりやすい案内看板の設置を検討します。



出典：株式会社コトブキ

(3) その他

公園内には、現在利用していない土地があるため、この未利用地の整備を検討します。

健康遊具の設置について検討します。

桜・モミジの植樹について検討します。

登山道

(1) 標識・案内看板の設置

登山道の入口及び経路等を分かりやすく案内する標識・案内看板の整備を検討します。また、外国語表記やQRコード等を活用し、景観や環境に配慮しつつ、分かりやすい案内看板の設置を検討します。

(2) 登山道の整備、休憩施設・ビューポイントの整備

利用者数等に応じて、危険な箇所がある場所は、木道や木階段、ロープ柵といった登山施設の設置を検討します。また、低山登山としても紹介される眉山であり、利用者の利便性や快適性を考慮した上で、必要に応じて途中で休憩施設の設置を検討します。

より魅力的な登山体験を提供するために見晴らしが望める場所に生い茂っている樹木は適度な伐採を行い、眺望を確保するなど、ビューポイントとしての整備が可能か併せて検討します。

(3) ソフト面の取り組み

登山道として利用されているルートは私有地である場所が多いため、地権者の同意や意思確認が不可欠です。地権者の確認及び登山道ルートの環境整備の後、ルートごとの難易度設定や登山道マップ等を作成し、広報活動を行います。

登山道を継続的に魅力的なものとして発展させていくには、「地権者をはじめとした地元住民、登山利用者」「観光ガイド」「登山愛好家などのボランティア」などの協力が不可欠です。

アクセス道路

眉山アクセス道路は山頂部に至る2路線と大滝山に至る1路線があります。

(1) 山頂部道路の整備

山頂部道路は老朽化が進行しているため、現道路に設置されている防護柵は、景観に配慮した防護柵に更新し、併せて舗装更新や安全対策を行うことを検討します。

(2) エントランス及び交差点整備、駐車場整備

眉山・東部観光線と眉山・西部観光線が交わる交差点部は、交差点改良及び旧料金所施設跡地を眉山公園のエントランスとして整備します。また、駐車場不足が懸念されるため、新たな駐車場を整備します。

(3) 交通安全対策

以下の交通安全対策について検討します。

- ・車線の引き直しやカーブ区間のドット標示などの路面標示、路肩外側のカラー標示、警戒標識（勾配標示、つづら折り標示など）

(4) 標識・案内看板、適切な道路維持

デザインを含めた統一性のある、分かりやすい標識、距離標等の設置を検討します。

大型車両のスムーズな通行及び交通安全対策のための伐採を検討します。また、傷んでいる構造物の修繕を検討します。

利活用

今後、眉山の利活用を円滑に推進するためには、眉山及び眉山周辺で活動する関係団体等との間で情報交換や連絡調整を密に行う必要があります。そのための組織づくりと場づくりが必要となります。眉山利活用推進のための組織として「眉山利活用推進協議会（仮）」の設立を目指します。

5. スケジュール

眉山未来プロジェクト事業スケジュールは以下のとおりです。



眉山未来プラン（案）

「見るだけでなく、楽しみながら滞在できる 緑と景観のシンボル」



50m

